

尻屋崎灯台（しりやざきとうだい）



<概要>

灯塔は、レンガ造で日本一の高さを誇る。設計者は、「日本の灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンで、明治期の灯台の一つです。

尻屋崎灯台は、霧信号発祥の地であり、明治10年11月、灯ろう外縁に吊るされた霧鐘が我が国最初の霧信号となりました。（我が国の霧信号所は平成22年3月で全て廃止。）

また、電気灯台発祥の地でもあり、明治34年12月、本灯台でアーク灯を点じたのが灯台電化の始まりとなっています。この光学装置は、フランスのエクミール灯台をモデルとしたもので、アラード式電気弧光灯といい、この改良により光度は3万6千燭光から一躍千三百万燭光となり、その明るさは「海の太陽」と航海者から讃えられるほどでした。しかしながら、設備費が嵩み、取り扱いがわずらわしいところから、アーク灯は姿を消しました。

昭和58年度耐震補強に合わせた保全が実施されています。

尻屋崎灯台は、明治期灯台で文化財的価値も高く、「日本の灯台50選」にも選ばれており、尻屋崎岬の寒立馬とともに、多くの観光客が訪れています。（灯台内部の参観は行っていません。）

尻屋崎灯台の要目

航路標識番号	1601 [M6630]
位置	北緯41度25分49秒 東経141度27分44秒
塗色・構造	白色・塔形(円形)レンガ造
灯器	第2等フレネルレンズ(水銀槽式回転灯器)
灯質	単閃白光 毎10秒に1閃光
光度	53万 カンデラ
光達距離	18.5海里(約34km)
明弧	52度から3度まで
灯塔高	32.82 m
灯高	46.71 m
初点灯	1876年(明治9)10月20日
所在地	青森県下北郡東通村尻屋字尻屋崎1-1
管轄	海上保安庁 第二管区海上保安本部

<歴史>

1876年（明治9年）10月20日：東北最初の灯台として初点灯。

1877年（明治10年）11月20日：日本で初めて霧鐘を設置。

1879年（明治12年）12月20日：日本で初めて霧笛を設置。

※ ちなみにこれを記念して12月20日が霧笛記念日となっている。

1901年（明治34年）：日本初の自家発電の電気式灯台に変更。

1945年（昭和20年）：米軍の攻撃により破壊。運用不能。

1946年（昭和21年）夏：破壊されたはずの灯台が光を放つ珍現象が起こる。

※ 以下の「まぼろしの灯台」を参照。

1946年（昭和21年）8月：霧信号舎屋上に仮の灯りを点灯。同時に珍現象も消える。

1951年（昭和26年）：灯台復旧。

1976年（昭和51年）：点灯100周年。

まぼろしの灯台

第二次世界大戦中の1945年（昭和20年）に米軍に射撃を受け、同時に村尾標識技手が殉職しました。翌1946年（昭和21年）、攻撃を受け破壊しつくされたはずの灯台が光を放ち、その目撃が相次ぎました。付近を航行中の漁船が遭難を免れたということもありました。人々は米軍の攻撃時に殉職した村尾標識技手の霊なのではないかと噂しました。同年8月に霧信号舎屋上に仮の灯りを点灯すると同時にこの現象は消えました。なお、灯台には銃撃の跡が今でも残っています。



かんだちめ
寒立馬と尻屋埼灯台